

あ と が き

関西大学学生センターが実施している「学生生活実態調査」は、昭和30年に第1回の調査を行って以来、半世紀を超える歴史があります。学生生活実態調査は昭和63年以降から異なった調査形式をローテーションで実施することとし、平成15年度まで毎年実施していましたが、平成16年度以降から隔年の実施となっていました。しかし、学生生活の実態が多種多様に変化していることから、学生の実態をよりの確に把握するため、平成21年度から再び毎年実施しています。この間、蓄積してきた調査結果のデータは膨大な量であり、本学としても貴重な財産として保存しています。

この調査は、昭和63年度以降3種類の異なった調査形式をローテーションで実施しております。1つ目は、経年比較を目的として、同様の質問項目を繰り返して行う「本学独自調査」です。2つ目は、学生の気質や考え方、生活習慣の変化など、基本項目だけでは測ることの出来ない情報を得るために、調査する年の社会情勢を踏まえて独自に調査項目を設定して行う「特別テーマ」です。そして3つ目が、今回実施した、日本私立大学連盟の実施する「学生生活実態調査」(全国調査)との比較に主眼を置いた調査です。日本私立大学連盟の調査結果と本学の調査結果を比較し、今日の学生の生活実態を把握することで今後の学生支援のあり方を検討していく資料にしていきたいと考えております。

今回の調査の結果、特に全国平均との差が顕著となった項目は、『大学に進学した理由』及び『本学を選択した理由』でした。『大学に進学した理由』については、全国平均よりも「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が12.5ポイント、「自分のしたいことを探すため」が7.2ポイント上回る結果となりました。『本学を選択した理由』については、全国平均よりも「就職に有利だと思ったから」が10.3ポイント、「自宅からの通学が可能だったから」が9.3ポイント、「総合大学だから」が8.1ポイント上回る結果となりました。以上の結果から、明確な目的意識を持って本学を選択した学生が全国平均に比べると少ないことがわかりました。その一方で、『正課教育と課外活動』の項目では、全国平均よりも「正課教育が学生生活の主要部分を占める」が3.8ポイント上回っており、本学学生の正課教育を重視する姿勢が明らかとなりました。これらの結果から、大学生活の中で自己を見つめ、将来の夢や希望を自問自答し、その実現に向けて努力しようとする現代の真面目な学生の気質を感じ取ることができました。

この学生生活実態調査によって、本学学生の学生生活に関する様々なことが統計的に明らかとなりました。本学としましては、この調査結果を貴重な資料としたうえで学生生活や教学における問題点等を改善するために有効に活用していきたいと考えています。

最後になりましたが、本調査を実施するにあたりご協力いただいた関係者の皆様をはじめ、アンケートに真摯に回答いただいた学生諸君に厚く御礼申し上げます。